

## 誰かと繋がること

府中市立府中第四中学校 3年 ケン アマラルナ

インドネシアの首都、ジャカルタを走る地下鉄。二〇一九年に開業したばかりのこの事業は、人々の足となっている。

ある時、父が母国のインドネシアに日本の電車が走ることを話してくれた。正式には、ジャカルタ都市高速鉄道（MRT）という事業だ。深刻な交通渋滞や環境を改善を目的とし、日本の円借款によって工事が始まった。ジャカルタを南北に走り、まだ距離は短いが、延長するフェーズ2の計画も出ている。

実際に乗ったことがある私の先生は、快適に利用できたそうだ。駅に入ると、まずそのきれいさに驚かされる。走る電車も、座席がプラスチック製であること以外に日本で乗るものと大きく変わらない。時間も予定通り。最後に、接客の仕方や礼儀などの面でも日本の方々が見てくれたそうだよ、と教えてくれた。

私はまだ乗ったことはないが、父や先生の話聞いて、写真も見てみると、本当に驚いた。ずっと日本に住んでいるが、インドネシアは両親と私の母国だ。大好きな日本の技術が海を超えて誰かのために役立っていると知るとはとても嬉しい。

さらに調べていくと、この事業は政府開発援助の一環だと知った。それまで聞いたことはあっても、実際にどこで何が行われているかは知らなかった。税金を使った外国への援助、協力はこんなにも身近なところにあったのだ。

税金の使い道は、国民だけ、日本の中だけではない。一部は、経済協力費として使われている。開発途上国の経済援助として公共事業に当てたり、医療を支援したりする。そう考えると、税金は私たちと色々な国との架け橋になっている。一人一人では到底できなくても、税金という形でなら少しは関係することができる。互いの名前も顔も知らなくても、私たちが誰かと繋がっているように、税金も人を支え、助け、救う大切な繋がりだ。

外務省のウェブサイトを見ると、本当にたくさんの国で政府開発援助が行われている。今までに一体どれだけの人と繋がり、力になることができたのだろう。分からないけれど、繋がりには確かにあるはずだ。

度々ニュースなどに出てきて、ネガティブな面が印象に残ってしまうのは少し悲しい。もちろん状況や事情を知ることが大切だ。しかし、ジャカルタの地下鉄などの取り組みは、必ず誰かの役に立っている。国を挙げての力になろうとする心に、もっと誇りをもってもいいのではないだろうか。

このパンデミックが収まったら、私は祖母や親戚に会いにインドネシアに行きたい。その時には MRT にも乗りたいと思う。税金で繋がった世界の輪を感じながら。